

土壌医検定から学んだもの

岐阜県立郡上高等学校 園芸科学科3年 山口智穂

私は郡上高等学校の園芸科学科に所属し「野菜」を専攻しています。授業や実習ではトマトやナス、カボチャ、ハクサイ、米などを栽培しています。「課題研究」では「メロンの二期作」について研究するための計画を立て、土づくりと生産について土壌医検定を通し、学びたいと考えました。

私が特に勉強になったことは、「土壌の化学性」と「作物の生育障害」についてです。作物を栽培していくうえで土壌養分のバランスと病気の対策は重要になってきます。メロンの二期作をしたいと計画を立てただけでは良い研究にはならないと思い、勉強をしていくうちにこの2つのことについて理解が深まりました。

土壌の化学性には必須元素があります。必須元素とは植物の生育に不可欠で、欠乏すると生育が抑えられる、あるいは停止する元素のことを言います。現在必須元素は17種類あり、その中でも窒素(N)、リン酸(P)、カリ(K)が重要になってきます。メロン栽培の上では窒素が過多であると株が軟弱に育ってしまい、生育障害であるうどん粉病の発症リスクが高まってしまいます。養分量が増えすぎても減りすぎても生育に支障が出でしまうことが分かりました。

土壌医検定に挑戦して、授業や実習で習ったことについてより詳しく理解できるようになり、とても勉強になりました。今後、課題研究の内容で養分や病気とはたくさん関わっていくので、学習したことを関わらせて研究をしていくのが楽しみです。

おいしいメロン、野菜を作るにはただ大きくなればよいと思って育てるだけではなく、作物についての勉強も大事になってきます。その中で栄養のバランスや生育障害が野菜に及ぼす影響は大きく、改めて大切なんだと勉強になりました。この学習で学んだことを活かしておいしいメロンを地域の方々に届けたいです。普段何気なく育てている野菜も勉強してみると不思議に思うことがたくさんありました。今後はこの経験を活かして野菜を取り巻く環境にも興味を持って学習していきたいです。

